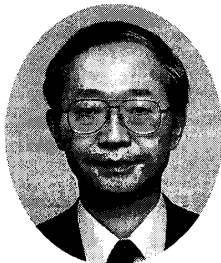


会長からのメッセージ

連携の強化と研究活動の活性化を目指して



中央大学 教授
中條 武志

国内市場が縮小する中、企業は、新しい顧客を求めて世界各地へ進出し、グローバル化のもとでの新たな経営スタイルを模索しています。また、社会の基盤をなす医療、エネルギー、運輸、教育などの分野では、安全・安心を確保しつつ、ニーズに着実に応えていくことが危急の課題となっています。このような中、本学会には、品質管理の方法論の開発と専門家の育成を通じた貢献が期待されています。

第43年度は第3期中期計画の最終年に当たります。「連携」を強化することで、Qの確保、展開、創造、共通の4本柱を着実に推進し、より大きな成果を生み出していきたいと考えています。

第一は、産と学の連携です。品質管理の方法論の多くは、実践の中で生まれました。また、その過程で多くの優秀な人材が育ってきました。このような認識のもと、学会では、(1)計画的に進める産学連携共同研究プロジェクト、(2)会員からテーマを提案頂いてマッチングをはかる公募型共同研究の両面から産学連携の活性化を進めてきました。結果として、書籍の出版、学会誌への論文掲載、研究発表会での発表などの成果が現れ始めています。

第二は、研究会・部会・特別委員会の連携です。現在、本部と支部を合わせて13研究会、3部会、2特別委員会が活動し、学会における研究活動の主要な役割を担っています。しかし、相互の啓発・協力をはかることでより活発な活動が展開できると考えられます。研究開発委員会が中心となって、それぞれのねらい・位置づけを一枚にまとめた研究領域マップ

を作成しました。また、昨年9月には、研究会・部会・特別委員会の主査が一堂に会して活動状況を報告し合い、今後の方向性について議論しました。そのような中から、新たな連携の可能性、取り組むべき研究領域が見えてきました。

第3は、日本科学技術連盟、日本規格協会、ISOなどの品質管理推進組織との連携です。広報委員会が中心となってこれらの組織と学会が行っている様々な活動の関連をまとめたマップを作成し、これらに色んな連携の可能性を検討してきました。多くの組織が品質賞やISO認証に挑戦することで、従来できなかったブレイクスルーを果たしています。これらの実践の内容に会員が触れる機会を増やし、組織が直面している課題を克服するための研究・実践を活性化させていくことが必要です。また、職務や職位ごとに求められる品質管理技術を整理し、品質管理推進組織の各種の研修や出版物を位置づけた技術習得のロードマップを作成すること、QC検定や品質技術者認定への挑戦を後押しすることなど、会員の自己研鑽の促進に向けた連携も必要です。さらに、JSQC規格の発行、そのJIS化・ISO化などを通して、標準化分野の取り組みを支援・補完していくことも必要です。

会員数の長期的な減少など、学会の状況は決して容易ではありませんが、その社会的な使命・役割を果たすべく、これらの活動に全力で取り組んでいきたいと考えています。会員をはじめ、関連各位のより一層の参画とお力添えをお願い申し上げます。